

八中2年人権だより

徳島市 八万中学校
2年生 第1号
2023年 6月 5日
編集・文 吉成正士

昨年度に引き続き、皆さんと人権学習をすることになりました2年人権担当の吉成正士(よしなりただし)です。今年度もどうぞよろしくお祈りします。

昨年度、皆さんと取り組んだ人権学習は、本当に充実した時間となりました。思い出ただけでも、うれしい気持ちがあふれてきます。人権学習に終わりはありません。今年も皆さんと、「学び続ける」ことの大切さよろこびを感じていきたいと思ひます。

八中2年人権作文発表会(5月31日)

去る5月31日、総合の時間を使って、2年生の人権作文発表会が開催されました。各クラス代表6人からの、これまでの人権学習での学びを通じた意見発表は、本当に多様で、内容の濃い作品ばかりでした。

順	組	発表者	題
①	5	TA	「部落差別について」
②	6	FH	「人権獲得の歴史と部落差別」
③	1	KM	「戦争について」
④	4	OH	「スポーツと人権」
⑤	3	YK	「ひいばあとお給食」
⑥	2	YY	「人の心を忘れずに」

今回は、意見発表順に作品について紹介しつつ、皆さんから寄せられた感想を中心に、あらためて学びを深めていきたいと思ひます。



①「部落差別について」5組:TA

— あらすじ —

昔のことだと思っていた部落差別の現実を知り、いじめと重ねて考えられるようになった。「知ろう考えようなくそう部落差別」の看板について考えたり、家族から話を聞いてみたり、図書館で本を見つけて読んでみたりして、これからも学んでいこうと思ひた。

②「人権獲得の歴史と部落差別」6組:FH

— あらすじ —

河原者又四郎の「だから殺生はしないように、物欲はもたないようにしている」や、資料「峠」の「人は遠くのことに対しては美しく生きられる」から、先人が感じてき

た苦しさに学び、「人権を守ろう」ではなく、人権を学び続けていきたいと思ひた。

そうならないために、絶対に変えていく

■代表の6人が発表してくれた人権作文を聞いて、図書館に行って調べてみた、看板などを見つけたら立ち止まって考えてみる、や実際にスポーツを体験して思ったこと、実際に畑仕事をして思ったことなど、全員が行動に移していて、本当にすごいと思ひた。1年生のときに吉成先生から言われた、「学び続ける人権学習」の結果で、私も見習いたいと思ひた。

私は、「遠くのことにはきれいに生きられる」という言葉がすごく心に残った。確かに、みんな口先では～してはいけないう、～は絶対にしないなど言ってるけど、実際自分が部落差別やいじめにかかると、なかなか注意や意見はできないうと思ひた。そうならないために、今日この会に参加して思ったことを忘れず、これからもさらに人権学習を続けていかなければいけないうと思ひた。

また、作文の発表で、「SNSにも人の心がある」と言っていたけど、本当にそうだと思ひし、私も含む多くの人が、SNSで自分の正体が分かっていないから、好きなことを発信して大丈夫と勘違いしていると思ひた。だからこそSNSは本来の自分と同じくらい慎重に、発言の内容を考えて利用していきないう。

今、自分たちの学年はとても気が緩んでいると思ひた。まわりと自分の言動を振り返ってもそう思ひた。今日の会で、それが学年全体の問題でもあると分かったし、この会をきっかけにして、絶対に変えていきないうと思ひた。発表者も前に比べたら少ないので、発表しやすい空気をつくりたい。今までで一番緊張感のある会だった。

(4組KN)



皆さんには、いざ、というときに、逃げない人、反応できる人であってほしいなと思ひます。命の危険があるときに、一人で立ち向かえ！というのではありません。その場は退避したり、一人ではなく助けを呼びに行くという方法もあります。とにかく、無反応であってほしくないということです。もし、自分が逆の立場で、助けが欲しいときに逃げられたり無反応なら、

どうでしょう。もし自分が勇気をもって意見発表をしても、誰も何も返してくれなかったら、どうでしょう。

今回の学年集会は、確かに発言者が少なく低調だったように思います。1年のときのあの勢いは？という感じでした。クラス替えがあって、環境が変わったせいかもしれませんが、そうならないために、繰り返し学年全体で学習する時間を持ってきたのですよ。



助け合える周りを見つけること

■私は人権作文発表会に参加して、いろんな人の思いや考えを知ることができました。6人の作文を聞いたときには、自分と同じような思いの人もいました。TAさんの作文では、私も部落差別のことを昔のことだから関係ないと心のどこかで思っていたことがあって、学んでいくにつれ、それは間違っていることだと気づいたので、とても共感できる内容でした。FHさんの作文では、「人間は遠いところではきれいに生きられる。でも自分のこととなったらそうはいかないのよ。」という言葉がとても心に残りました。私も正直、自分のこととなったらどうなるのか分からないと思いました。でも、一つ言えるのは、そんな時に止めるのが本当の友達だということです。私の作文でも、友達の大切さを書いています。二人ではできなくても、周りの人が助けてくれることで、できることだってあります。自分を正しい方向に導いてくれる人をこれからもたくさん見つけていきたいです。

最後の吉成先生の話では、心臓移植を待っていた少女がやりたかった「遊ぶ」ということは、相手がいないとできないことなのに、その相手の命を冒涇するような行動をすると、いったい何が残るのかなと思いました。そんなことがないように、だれかが相手を傷つけるような行動をしていたら、一人では勇気がなくても、周りの人と一緒なら注意できると思うので、これからはそうしてみんなと協力して、いいクラスを作っていきたいです。(5組HM)

一人では難しいかもしれませんが、でも、仲間がいれば頑張れる。そんな仲間、あなたがなりましょう。私がなりましょう。急にはなれないかもしれませんが、でも、卒業するころまでにはなっておきましょう。高校ではこんな学習をする機会はなくなってしまうのですから。なるなら、今です。中学時代です。

先に、クラス替えがあったから？と書きましたが、もしそうであれば、次のステージに進んだときも、低調になってしまうということです。今までした学習は忘れてしまったかのように、リセットされてしまうということです。そうならないために、環境が変わっても、大事なものは大事なものとして守り抜くために、

時間をかけて自分の力にしていけることです。それが試されるのは、次は中学3年時のクラス替えです。

大勢のなかで発表することは、確かに勇気があることかもしれませんが、でも、いざ、というとき、大切な友達にえられる、そんな人にならなくてほしいなと思います。急には無理です。発表の場は、そのための、大切なトレーニングです。そうやって少しずつ自分を変えていくことです。

③「戦争について」1組:KM

あらすじ
小学生の時に家族で訪れた広島平和記念資料館。そこで見た資料から受けた衝撃。図書館で調べた戦争や、今起きているウクライナでの戦争。兵士や、その家族の苦しみから、戦争はなくせるのか、自分に何ができるのか、これからも調べていきたい。



遺産の意味を理解し、学び続ける

■私は人権作文発表会で、初めて学年全員の前で作文を読みました。1年生の時から発表が苦手で、あまり発表しなかったけど、今日とてもよい経験ができました。すごい不安だったけど、皆さんのあたたかい視線が不安を少しずつ溶かしてくれているみたいでした。

他の人の発表を聞いて、まず部落差別についてですが、TAさんが部落差別を受けた人が書いた本を読んだと言っていました。読むことで正しく知って正しく行動できると思ったので、ポスターを見たり本も読んでいきたいです。

戦争についての作文を聴いて、原爆が落とされた地域の人が差別を受けたという話を聴いて、原爆で亡くなった方やその家族、けがを負って苦しんでいるのに、それを他人事のようにしている。そして日本は今、戦争がない平和な国ですが、だからといって他人事にはいけないし、原爆ドームなど昔の人々が遺してくれた意味を理解し、学び続けなければいけないとあらためて思いました。

SNSについての作文を聴いて、私はたまにアンチコメントとか、傷つく言葉を書いているコメントを見たことがあって、そのとき私はすごく嫌な気持ちになりました。でも、書いた本人は傷ついていないかもしれません。だからコメントを送る前に、その言葉は人を傷つけないかをしっかり考えることが大切だと思いました。でも一番いいのは、コメントをしないことだと思いました。(4組OH)

(4組OH)

(2号につづく)